

楽典Ⅱ

授業形態	講義	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	楽典Ⅰ及び和声の復習と発展		
到達目標	楽典Ⅰ及び和声で学んだ事を発展させより高度な音楽理論を身に着ける事を目標とする。		
教材	楽典 理論と実習(音楽之友社) プリント教材		

年間授業計画

1 和声法Ⅱを学ぶにあたって	37 -	73 -	109 -
2 基本位置と転回位置(低音位)	38 -	74 -	110 -
3 声部と配置	39 -	75 -	111 -
4 課題実習	40 -	76 -	112 -
5 課題実習	41 -	77 -	113 -
6 基本位置3和音の標準連結	42 -	78 -	114 -
7 課題実習	43 -	79 -	115 -
8 課題実習	44 -	80 -	116 -
9 課題実習	45 -	81 -	117 -
10 II → Vの連結	46 -	82 -	118 -
11 課題実習	47 -	83 -	119 -
12 V → VIの連結	48 -	84 -	120 -
13 課題実習	49 -	85 -	121 -
14 カデンツの結合と終止形	50 -	86 -	122 -
15 課題実習	51 -	87 -	123 -
16 課題実習	52 -	88 -	124 -
17 授業内試験	53 -	89 -	125 -
18 前期まとめ	54 -	90 -	126 -
19 3和音の第1転回形	55 -	91 -	127 -
20 課題実習	56 -	92 -	128 -
21 課題実習	57 -	93 -	129 -
22 課題実習	58 -	94 -	130 -
23 1転3和音を含むカデンツ	59 -	95 -	131 -
24 課題実習	60 -	96 -	132 -
25 3和音第2転回形の定型	61 -	97 -	133 -
26 課題実習	62 -	98 -	134 -
27 課題実習	63 -	99 -	135 -
28 V7の和音 → Iの和音への連結	64 -	100 -	136 -
29 課題実習	65 -	101 -	137 -
30 課題実習	66 -	102 -	138 -
31 先行和音 → V7の和音への連結	67 -	103 -	139 -
32 課題実習	68 -	104 -	140 -
33 課題実習	69 -	105 -	141 -
34 課題実習	70 -	106 -	142 -
35 授業内試験	71 -	107 -	143 -
36 後期まとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

音楽史Ⅲ

授業形態	講義	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	時代による演奏方法の違いや使用楽器の違い、又同じ時代にあっても国によつての演奏方法の違いを理解する。		
到達目標	音楽史Ⅱで学んだ内容を、より深く学び高度な知識を身に付け演奏や仕事に役立てることを目標とする。		
教材	大人の音楽史入門(ヤマハミュージックメディア) プリント教材		

年間授業計画

1 20世紀音楽の始まりとその背景	37 -	73 -	109 -
2 印象主義音楽:ドビュッシー	38 -	74 -	110 -
3 ドビュッシー 交響詩「海」鑑賞	39 -	75 -	111 -
4 ラヴェルとその他の作曲家	40 -	76 -	112 -
5 その後のロシア:グラスノフ、ラフマニノフほか	41 -	77 -	113 -
6 ストラヴィンスキーの音楽	42 -	78 -	114 -
7 ストラヴィンスキー バレエ「春の祭典」鑑賞	43 -	79 -	115 -
8 12音音楽:シェーンベルクとその弟子たち	44 -	80 -	116 -
9 第一次世界大戦以後のフランス音楽:フランス6人組ほか①	45 -	81 -	117 -
10 第一次世界大戦以後のフランス音楽:フランス6人組ほか②	46 -	82 -	118 -
11 20世紀のドイツ・オーストリアの音楽	47 -	83 -	119 -
12 20世紀のソヴィエト音楽	48 -	84 -	120 -
13 ハンガリー:バルトークほか	49 -	85 -	121 -
14 20世紀のイタリア音楽、その他のヨーロッパ諸国	50 -	86 -	122 -
15 アメリカ音楽の流れ	51 -	87 -	123 -
16 前衛的な音楽	52 -	88 -	124 -
17 前期試験準備	53 -	89 -	125 -
18 前期試験	54 -	90 -	126 -
19 前期試験解答	55 -	91 -	127 -
20 楽器学から見る音楽史(1)楽器のはじまりと人々の音楽との関わり	56 -	92 -	128 -
21 楽器学から見る音楽史(2)弦楽器①	57 -	93 -	129 -
22 楽器学から見る音楽史(3)弦楽器②	58 -	94 -	130 -
23 楽器学から見る音楽史(4)管楽器	59 -	95 -	131 -
24 楽器学から見る音楽史(5)木管楽器:エアリード属	60 -	96 -	132 -
25 楽器学から見る音楽史(6)木管楽器:ダブルリード属	61 -	97 -	133 -
26 楽器学から見る音楽史(7)木管楽器:シングルリード属	62 -	98 -	134 -
27 楽器学から見る音楽史(8)金管楽器①	63 -	99 -	135 -
28 楽器学から見る音楽史(9)金管楽器②	64 -	100 -	136 -
29 楽器学から見る音楽史(10)打楽器	65 -	101 -	137 -
30 楽器学から見る音楽史(11)鍵盤楽器①	66 -	102 -	138 -
31 楽器学から見る音楽史(12)鍵盤楽器②	67 -	103 -	139 -
32 楽器学から見る音楽史(13)その他の楽器	68 -	104 -	140 -
33 後期試験準備1	69 -	105 -	141 -
34 後期試験準備2	70 -	106 -	142 -
35 後期試験	71 -	107 -	143 -
36 まとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

編曲法Ⅲ

授業形態		講義	年間授業時間数	36時間	
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽を指導する上で、編曲者として楽曲を提供している教員による授業		
授業内容	あらゆる楽曲をアンサンブル曲・合奏曲へ編曲、また違ったジャンルへのアレンジ方法を学ぶ				
到達目標	編曲法Ⅱで習得した技術を応用しより高度な編曲法を身につける事を目的とする。				
教材	作曲・編曲用ソフト Finale				

年間授業計画

1 選曲1：複数曲の課題曲(管弦楽曲)と聴き曲を選択する	37 -	73 -	109 -
2 選曲2	38 -	74 -	110 -
3 スコア作成1：楽器編成を決める	39 -	75 -	111 -
4 スコア作成2	40 -	76 -	112 -
5 編曲1	41 -	77 -	113 -
6 編曲2	42 -	78 -	114 -
7 編曲3	43 -	79 -	115 -
8 編曲4	44 -	80 -	116 -
9 編曲5	45 -	81 -	117 -
10 編曲6	46 -	82 -	118 -
11 編曲7	47 -	83 -	119 -
12 編曲8	48 -	84 -	120 -
13 編曲9	49 -	85 -	121 -
14 編曲10	50 -	86 -	122 -
15 編曲11	51 -	87 -	123 -
16 編曲12	52 -	88 -	124 -
17 前期授業内テスト	53 -	89 -	125 -
18 前期まとめ	54 -	90 -	126 -
19 編曲13	55 -	91 -	127 -
20 編曲16	56 -	92 -	128 -
21 編曲17	57 -	93 -	129 -
22 編曲18	58 -	94 -	130 -
23 編曲19	59 -	95 -	131 -
24 編曲20	60 -	96 -	132 -
25 編曲21	61 -	97 -	133 -
26 編曲22	62 -	98 -	134 -
27 編曲23	63 -	99 -	135 -
28 編曲24	64 -	100 -	136 -
29 編曲25	65 -	101 -	137 -
30 編曲26	66 -	102 -	138 -
31 編曲27	67 -	103 -	139 -
32 編曲28	68 -	104 -	140 -
33 編曲29	69 -	105 -	141 -
34 編曲30	70 -	106 -	142 -
35 後期授業内テスト(合奏音だし確認)	71 -	107 -	143 -
36 後期まとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

実践指揮法Ⅲ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業	
授業内容	指揮者として実際にバンドの指揮を振り、表現方法の指示を明確に出来るようにする。			
到達目標	実践指揮法Ⅱで学んだ事を応用し、より高度な指揮法を身に付ける事を目標とする。			
教材	各種楽曲(吹奏楽譜、オーケストラ譜など)			

年間授業計画

1 指揮の基本姿勢	37 -	73 -	109 -
2 指揮棒の持ち方	38 -	74 -	110 -
3 スコアの見方1	39 -	75 -	111 -
4 スコアの見方2と2拍子の基本図形	40 -	76 -	112 -
5 3拍子の基本図形	41 -	77 -	113 -
6 4拍子の基本図形	42 -	78 -	114 -
7 2拍子の作品で実習	43 -	79 -	115 -
8 2拍子の作品で実習	44 -	80 -	116 -
9 3拍子の作品で実習	45 -	81 -	117 -
10 3拍子の作品で実習	46 -	82 -	118 -
11 4拍子の作品で実習	47 -	83 -	119 -
12 4拍子の作品で実習	48 -	84 -	120 -
13 定期演奏会の作品を使用して実習	49 -	85 -	121 -
14 定期演奏会の作品を使用して実習	50 -	86 -	122 -
15 定期演奏会の作品を使用して実習	51 -	87 -	123 -
16 定期演奏会の作品を使用して実習	52 -	88 -	124 -
17 定期演奏会の作品を使用して実習	53 -	89 -	125 -
18 定期演奏会の作品を使用して実習	54 -	90 -	126 -
19 定期演奏会の作品を使用して実習	55 -	91 -	127 -
20 定期演奏会の作品を使用して実習	56 -	92 -	128 -
21 定期演奏会の作品を使用して実習	57 -	93 -	129 -
22 定期演奏会の作品を使用して実習	58 -	94 -	130 -
23 複合拍子の指揮法	59 -	95 -	131 -
24 混合拍子の指揮法	60 -	96 -	132 -
25 変拍子の指揮法1	61 -	97 -	133 -
26 変拍子の指揮法2	62 -	98 -	134 -
27 変拍子の指揮法3	63 -	99 -	135 -
28 フィルマータの指揮1	64 -	100 -	136 -
29 フィルマータの指揮2	65 -	101 -	137 -
30 変拍子の指揮法1	66 -	102 -	138 -
31 定期演奏会の作品を使用して実習	67 -	103 -	139 -
32 定期演奏会の作品を使用して実習	68 -	104 -	140 -
33 定期演奏会の作品を使用して実習	69 -	105 -	141 -
34 定期演奏会の作品を使用して実習	70 -	106 -	142 -
35 定期演奏会の作品を使用して実習	71 -	107 -	143 -
36 定期演奏会の作品を使用して実習	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○					
筆記試験		A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

吹奏楽基礎演習Ⅲ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の演奏経験のある教員による授業	
授業内容	コーラルやコンコーネを使用し、ハーモニーやバランスを自分で判断できるようにする。また合奏内での自分の役割を瞬時に判断できるようにする。			
到達目標	同調の楽器だけでなく様々な調の楽器とのユニゾンの合わせ方やハーモニーの鳴らし方、バランスの取り方等を習得し基本的な合奏能力の向上を目標とする。			
教材	吹奏楽のためのコンコーネ 50(ティーダ出版)・合唱曲集			

年間授業計画

1 スケール(以下S)とデンフラージュ(以下D)	37 -	73 -	109 -
2 SとD	38 -	74 -	110 -
3 SとD	39 -	75 -	111 -
4 Sとハーモニー(以下H)とD	40 -	76 -	112 -
5 SとHとD	41 -	77 -	113 -
6 SとHとD	42 -	78 -	114 -
7 SとHとD	43 -	79 -	115 -
8 SとHとD	44 -	80 -	116 -
9 SとHとD	45 -	81 -	117 -
10 SとHとD	46 -	82 -	118 -
11 SとHとD	47 -	83 -	119 -
12 SとHとD	48 -	84 -	120 -
13 SとHとD	49 -	85 -	121 -
14 SとHとD	50 -	86 -	122 -
15 SとHとD	51 -	87 -	123 -
16 SとHとD	52 -	88 -	124 -
17 SとHとD	53 -	89 -	125 -
18 SとHとD	54 -	90 -	126 -
19 SとHとD	55 -	91 -	127 -
20 SとHとD	56 -	92 -	128 -
21 SとHとD	57 -	93 -	129 -
22 SとHとD	58 -	94 -	130 -
23 SとHとD	59 -	95 -	131 -
24 SとHとD	60 -	96 -	132 -
25 SとHとD	61 -	97 -	133 -
26 SとHとD	62 -	98 -	134 -
27 SとHとD	63 -	99 -	135 -
28 SとHとD	64 -	100 -	136 -
29 SとHとD	65 -	101 -	137 -
30 SとHとD	66 -	102 -	138 -
31 SとHとD	67 -	103 -	139 -
32 SとHとD	68 -	104 -	140 -
33 SとHとD	69 -	105 -	141 -
34 SとHとD	70 -	106 -	142 -
35 SとHとD	71 -	107 -	143 -
36 SとHとD	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

吹奏楽演習Ⅲ

授業形態		演習	年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管楽アンサンブル等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業	
授業内容	ジャンルを問わず様々な楽曲を演奏し、一つのバンドとしてまとまった演奏を各自考えて行えるようにする。			
到達目標	合奏を通じて多様なジャンルの楽曲について学び理解を深める。多様なジャンルの合奏能力の向上を目標とする。			
教材	各種楽曲(吹奏楽譜、オーケストラ譜など)			

年間授業計画

1 各国のマーチと初見合奏	37 合奏(定期演奏会)	73 コラールと初見合奏	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	40 合奏(定期演奏会)	76 コラールと前回の作品を使用した合奏	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 各国のマーチと初見合奏	43 合奏(定期演奏会)	79 コラールと初見合奏	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	46 合奏(定期演奏会)	82 コラールと前回の作品を使用した合奏	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 各国のマーチと初見合奏	49 合奏(定期演奏会)	85 コラールと初見合奏	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	52 合奏(定期演奏会)	88 コラールと前回の作品を使用した合奏	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 各国のマーチと初見合奏	55 合奏(定期演奏会)	91 合奏(定期演奏会)	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	58 合奏(定期演奏会)	94 合奏(定期演奏会)	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 各国のマーチと初見合奏	61 合奏(定期演奏会)	97 合奏(定期演奏会)	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	64 合奏(定期演奏会)	100 合奏(定期演奏会)	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 各国のマーチと初見合奏	67 コラールと初見合奏	103 合奏(定期演奏会)	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	70 コラールと前回の作品を使用した合奏	106 合奏(定期演奏会)	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率と定期演奏会(当日・集中練習と合宿)の出席率の合算によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない

吹奏楽指導法Ⅲ

授業形態		実習	年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	中高等学校や大学で吹奏楽・管弦楽等の指導者としての実務経験のある教員による授	
授業内容	曲による演奏法の違いを実践し、異なった時代による演奏様式などの指導法を身につける。			
到達目標	合奏を通じて吹奏楽基礎演習や吹奏楽演習で学んでいる内容を、指導者として各パートに指示できる指導法を身につける事が目標。			
教材	各種楽曲(吹奏楽譜、オーケストラ譜など)			

年間授業計画

1 合奏内での個別指導	37 合奏内での個別指導	73 合奏内での個別指導	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 "	40 "	76 "	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 "	43 "	79 "	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 "	46 "	82 "	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 "	49 "	85 "	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 "	52 "	88 "	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 "	55 "	91 "	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 "	58 "	94 "	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 "	61 "	97 "	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 "	64 "	100 "	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 "	67 "	103 "	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 "	70 "	106 "	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする			
出席	○			
筆記試験	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
実技試験	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

演奏実習Ⅲ(吹奏楽コース)

授業形態	実習	年間授業時間数	216時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	公務員音楽隊や海外留学を目標としプロの音楽家としての資質を身につける。		
到達目標	演奏実習Ⅰで学んだ内容を応用・発展させ更に高いレベルの演奏技術を身に着ける事を目的とする。		
教材	各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール<サクソ>)、アーバン金管教則本<トランペット>など)		

年間授業計画

1 個別指導・演習	37 個別指導・演習	73 個別指導・演習	109 個別指導・演習	145 個別指導・演習	181 個別指導・演習
2 "	38 "	74 "	110 "	146 "	182 "
3 "	39 "	75 "	111 "	147 "	183 "
4 "	40 "	76 "	112 "	148 "	184 "
5 "	41 "	77 "	113 "	149 "	185 "
6 "	42 "	78 "	114 "	150 "	186 "
7 "	43 "	79 "	115 "	151 "	187 "
8 "	44 "	80 "	116 "	152 "	188 "
9 "	45 "	81 "	117 "	153 "	189 "
10 "	46 "	82 "	118 "	154 "	190 "
11 "	47 "	83 "	119 "	155 "	191 "
12 "	48 "	84 "	120 "	156 "	192 "
13 "	49 "	85 "	121 "	157 "	193 "
14 "	50 "	86 "	122 "	158 "	194 "
15 "	51 "	87 "	123 "	159 "	195 "
16 "	52 "	88 "	124 "	160 "	196 "
17 "	53 "	89 "	125 "	161 "	197 "
18 "	54 "	90 "	126 "	162 "	198 "
19 "	55 "	91 "	127 "	163 "	199 "
20 "	56 "	92 "	128 "	164 "	200 "
21 "	57 "	93 "	129 "	165 "	201 "
22 "	58 "	94 "	130 "	166 "	202 "
23 "	59 "	95 "	131 "	167 "	203 "
24 "	60 "	96 "	132 "	168 "	204 "
25 "	61 61	97 "	133 "	169 "	205 "
26 "	62 "	98 "	134 "	170 "	206 "
27 "	63 "	99 "	135 "	171 "	207 "
28 "	64 "	100 "	136 "	172 "	208 "
29 "	65 "	101 "	137 "	173 "	209 "
30 "	66 "	102 "	138 "	174 "	210 "
31 "	67 "	103 "	139 "	175 "	211 "
32 "	68 "	104 "	140 "	176 "	212 "
33 "	69 "	105 "	141 "	177 "	213 "
34 "	70 "	106 "	142 "	178 "	214 "
35 "	71 "	107 "	143 "	179 "	215 "
36 "	72 "	108 "	144 "	180 "	216 "

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○				
筆記試験		A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

デイリートレーニングⅢ

授業形態	演習	年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	さまざまなバリエーションで音階練習をおこない、演奏するための基礎体力向上をはかる。		
到達目標	基礎練習を毎日行い演奏するための体力を身につける事を目的とする。		
教材	各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール〈サクソ〉、アーバン金管教則本〈トランペット〉など)		

年間授業計画

1 基礎練習	37 基礎練習	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 "	39 "	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 "	41 "	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 "	43 "	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 "	45 "	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 "	47 "	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 "	49 "	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 "	51 "	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 "	53 "	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 "	55 "	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 "	57 "	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 "	59 "	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 "	61 "	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 "	63 "	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 "	65 "	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 "	67 "	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 "	69 "	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 "	71 "	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない

演奏研究Ⅲ

授業形態		演習	年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	コンクールやアンサンブルコンテストで審査員を務めている教員による授業	
授業内容	あらかじめ準備したエチュードや楽曲を他の学生の前で発表し、公務員音楽隊やコンセルヴァトワールへのオーディション時に練習成果が発揮できるようにする。また、他の学生の演奏を聴くことにより自身の演奏の参考にする。			
到達目標	人前で演奏することに対する抵抗感や緊張を緩和し、日頃の練習成果を発揮できるようにする事を目標とする。			
教材	各楽器指定教則本 ソロ曲			

年間授業計画

1 本番形式による個別指導	37 本番形式による個別指導	73 本番形式による個別指導	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 "	40 "	76 "	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 "	43 "	79 "	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 "	46 "	82 "	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 "	49 "	85 "	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 "	52 "	88 "	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 "	55 "	91 "	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 "	58 "	94 "	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 "	61 "	97 "	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 "	64 "	100 "	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 "	67 "	103 "	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 "	70 "	106 "	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○					
筆記試験		A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

聴音Ⅲ

授業形態	演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	①複数の旋律や臨時記号を聞き取れるようにする。 ②4声和音の内声の動きを聞き取れるようにする。		
到達目標	聴音Ⅰで習得した技術を応用・発展させ更に高度な音に反応する力を身につける事を目標とする。		
教材	プリント教材(自作プリント)		

年間授業計画

1 クラス決め試験	37 -	73 -	109 -
2 聴音1	38 -	74 -	110 -
3 聴音2	39 -	75 -	111 -
4 聴音3	40 -	76 -	112 -
5 聴音4	41 -	77 -	113 -
6 聴音5	42 -	78 -	114 -
7 聴音6	43 -	79 -	115 -
8 聴音7	44 -	80 -	116 -
9 聴音8	45 -	81 -	117 -
10 聴音9	46 -	82 -	118 -
11 聴音10	47 -	83 -	119 -
12 聴音11	48 -	84 -	120 -
13 聴音12	49 -	85 -	121 -
14 聴音13	50 -	86 -	122 -
15 聴音14	51 -	87 -	123 -
16 聴音15	52 -	88 -	124 -
17 前期授業内テスト	53 -	89 -	125 -
18 前期まとめ	54 -	90 -	126 -
19 聴音16	55 -	91 -	127 -
20 聴音17	56 -	92 -	128 -
21 聴音18	57 -	93 -	129 -
22 聴音19	58 -	94 -	130 -
23 聴音20	59 -	95 -	131 -
24 聴音21	60 -	96 -	132 -
25 聴音22	61 -	97 -	133 -
26 聴音23	62 -	98 -	134 -
27 聴音24	63 -	99 -	135 -
28 聴音25	64 -	100 -	136 -
29 聴音26	65 -	101 -	137 -
30 聴音27	66 -	102 -	138 -
31 聴音28	67 -	103 -	139 -
32 聴音29	68 -	104 -	140 -
33 聴音30	69 -	105 -	141 -
34 聴音31	70 -	106 -	142 -
35 後期授業内テスト	71 -	107 -	143 -
36 後期まとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

視唱Ⅲ

授業形態	演習	年間授業時間数	36時間
------	----	---------	------

実務経験のある教員		実務内容	
-----------	--	------	--

授業内容	声に出して歌い、ピアノなどのガイドが無くても正確な音程・リズムを取る練習をする。
------	--

到達目標	声に出して歌うことで、頭の中で正確に音程・リズムをイメージしながら演奏できることを目標とする。
------	---

教材	コンコーネ50番(音楽之友社) コールユーブンゲン(大阪開成館)
----	-------------------------------------

年間授業計画

1 コールユーブンゲン・コンコーネ1	37 -	73 -	109 -
2 コールユーブンゲン・コンコーネ2	38 -	74 -	110 -
3 コールユーブンゲン・コンコーネ3	39 -	75 -	111 -
4 コールユーブンゲン・コンコーネ4	40 -	76 -	112 -
5 コールユーブンゲン・コンコーネ5	41 -	77 -	113 -
6 コールユーブンゲン・コンコーネ6	42 -	78 -	114 -
7 コールユーブンゲン・コンコーネ7	43 -	79 -	115 -
8 コールユーブンゲン・コンコーネ8	44 -	80 -	116 -
9 コールユーブンゲン・コンコーネ9	45 -	81 -	117 -
10 コールユーブンゲン・コンコーネ10	46 -	82 -	118 -
11 コールユーブンゲン・コンコーネ11	47 -	83 -	119 -
12 合唱1	48 -	84 -	120 -
13 合唱2	49 -	85 -	121 -
14 合唱3	50 -	86 -	122 -
15 新曲視唱1	51 -	87 -	123 -
16 新曲視唱2	52 -	88 -	124 -
17 新曲視唱3	53 -	89 -	125 -
18 前期まとめ	54 -	90 -	126 -
19 コールユーブンゲン・コンコーネ12	55 -	91 -	127 -
20 コールユーブンゲン・コンコーネ13	56 -	92 -	128 -
21 コールユーブンゲン・コンコーネ14	57 -	93 -	129 -
22 コールユーブンゲン・コンコーネ15	58 -	94 -	130 -
23 コールユーブンゲン・コンコーネ16	59 -	95 -	131 -
24 コールユーブンゲン・コンコーネ17	60 -	96 -	132 -
25 コールユーブンゲン・コンコーネ18	61 -	97 -	133 -
26 コールユーブンゲン・コンコーネ19	62 -	98 -	134 -
27 コールユーブンゲン・コンコーネ20	63 -	99 -	135 -
28 コールユーブンゲン・コンコーネ21	64 -	100 -	136 -
29 コールユーブンゲン・コンコーネ22	65 -	101 -	137 -
30 合唱4	66 -	102 -	138 -
31 合唱5	67 -	103 -	139 -
32 合唱6	68 -	104 -	140 -
33 新曲視唱4	69 -	105 -	141 -
34 新曲視唱5	70 -	106 -	142 -
35 新曲視唱6	71 -	107 -	143 -
36 後期まとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	(出席率) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験		(実技試験) A評価 100～90	B評価 89～70	C評価 69～50	D評価 49～	E評価 未受験
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

ピアノ基礎Ⅲ

授業形態	演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	基礎的なピアノ楽曲の演奏		
到達目標	基礎ピアノ演奏技術を身につけ、演奏や仕事に役立てる事を目標とする。		
教材	ハノンピアノ教本(全音楽譜出版社)・ソナチネアルバム(全音楽譜出版社)		

年間授業計画

1 個別指導	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 "	55 -	91 -	127 -
20 "	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 "	58 -	94 -	130 -
23 "	59 -	95 -	131 -
24 "	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 "	62 -	98 -	134 -
27 "	63 -	99 -	135 -
28 "	64 -	100 -	136 -
29 "	65 -	101 -	137 -
30 "	66 -	102 -	138 -
31 "	67 -	103 -	139 -
32 "	68 -	104 -	140 -
33 "	69 -	105 -	141 -
34 "	70 -	106 -	142 -
35 "	71 -	107 -	143 -
36 "	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

マーチングⅢ

授業形態		演習	年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員	○	実務内容	公務員音楽隊員としてマーチング実務経験のある教員による授業	
授業内容	①様々なドリル技術の演習。 ②マーチング用ドリルコンテの製作。			
到達目標	マーチングの指導が出来る知識を身につける事を目標とする。			
教材	ハンドブック① マーチングバンド&バトントワリング(日本マーチングバンド・バトントワーリング協会)			

年間授業計画

1 マーチング基本知識	37 映像による研究1	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 基本動作(姿勢、MT)	39 映像による研究2	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 基本動作(RF、LF、AF)	41 マーチング曲合奏1	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 基本動作(FM)	43 マーチング曲合奏2	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 基本動作(RM)	45 マーチング曲合奏3	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 方向変換(4拍)	47 マーチング曲暗譜1	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 4拍によるL字パターン	49 マーチング曲暗譜2	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 方向変換(2拍)	51 コンテ1	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 2拍によるL字パターン	53 コンテ2	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 方向変換(スピン)	55 コンテ3	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 スピンによるL字パターン	57 コンテ4	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 コンビネーション(LP、RP)	59 ドラムメジャー1	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 コンビネーション(RTS)	61 ドラムメジャー2	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 コンビネーション(FTL)	63 カラーガード1	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 コンビネーション(RPC、LPC)	65 カラーガード2	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 応用(オブリーク)	67 コンテ研究1	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 N字パターン	69 コンテ研究2	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 Z字パターン	71 コンテ研究3	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

社会人基礎Ⅱ

授業形態	講義	年間授業時間数	18時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	社会人としての素養を身に付けるため、社会人としてのあり方などを学ぶ。		
到達目標	社会人としての素養を身に付ける。		
教材	自作プリント等		

年間授業計画

1 個別指導	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 -	55 -	91 -	127 -
20 -	56 -	92 -	128 -
21 -	57 -	93 -	129 -
22 -	58 -	94 -	130 -
23 -	59 -	95 -	131 -
24 -	60 -	96 -	132 -
25 -	61 -	97 -	133 -
26 -	62 -	98 -	134 -
27 -	63 -	99 -	135 -
28 -	64 -	100 -	136 -
29 -	65 -	101 -	137 -
30 -	66 -	102 -	138 -
31 -	67 -	103 -	139 -
32 -	68 -	104 -	140 -
33 -	69 -	105 -	141 -
34 -	70 -	106 -	142 -
35 -	71 -	107 -	143 -
36 -	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

フランス語Ⅲ

授業形態	講義	年間授業時間数	144時間
------	----	---------	-------

実務経験のある教員		実務内容	
-----------	--	------	--

授業内容	日常会話から音楽的な専門会話を行えるよう語彙力を身に付ける。
------	--------------------------------

到達目標	留学後、現地での生活やレッスン等に支障をきたさないよう語学能力を身に付ける事を目標とする。
------	---

教材	《新版》ル・フランセ(白水社) 私のホームステイ(白水社)・プリント教材
----	---

年間授業計画

1 1)フランス語資格試験対策①	37 10)フランス語音楽用語②	73 19)フランス語資格試験対策①	109 28)フランス語音楽用語②
2 "	38 "	74 "	110 "
3 "	39 "	75 "	111 "
4 "	40 "	76 "	112 "
5 2)フランス語資格試験対策②	41 11)フランス語音楽用語③	77 20)フランス語資格試験対策②	113 29)フランス語音楽用語③
6 "	42 "	78 "	114 "
7 "	43 "	79 "	115 "
8 "	44 "	80 "	116 "
9 3)フランス語資格試験対策③	45 12)フランス語音楽用語④	81 21)フランス語資格試験対策③	117 30)フランス語音楽用語④
10 "	46 "	82 "	118 "
11 "	47 "	83 "	119 "
12 "	48 "	84 "	120 "
13 4)フランス語資格試験対策④	49 "	85 22)フランス語資格試験対策④	121 "
14 "	50 13)フランス語日常会話①	86 "	122 31)フランス語日常会話①
15 "	51 "	87 "	123 "
16 "	52 "	88 "	124 "
17 5)フランス語資格試験対策⑤	53 "	89 23)フランス語資格試験対策⑤	125 "
18 "	54 "	90 "	126 "
19 "	55 14)フランス語日常会話②	91 "	127 32)フランス語日常会話②
20 "	56 "	92 "	128 "
21 6)フランス語資格試験対策⑥	57 "	93 24)フランス語資格試験対策⑥	129 "
22 "	58 "	94 "	130 "
23 "	59 "	95 "	131 "
24 "	60 15)フランス語日常会話③	96 "	132 33)フランス語日常会話③
25 7)フランス語資格試験模擬試験	61 "	97 25)フランス語資格試験模擬試験	133 "
26 "	62 "	98 "	134 "
27 "	63 "	99 "	135 "
28 "	64 "	100 "	136 "
29 8)フランス語資格試験模擬試験解答	65 16)フランス語日常会話④	101 26)フランス語資格試験模擬試験解答	137 34)フランス語日常会話④
30 "	66 "	102 "	138 "
31 "	67 "	103 "	139 "
32 "	68 "	104 "	140 "
33 9)フランス語音楽用語①	69 "	105 27)フランス語音楽用語①	141 "
34 "	70 17)前期試験準備	106 "	142 35)後期試験準備
35 "	71 "	107 "	143 "
36 "	72 18)前期試験	108 "	144 36)後期試験

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				